

令和2年9月30日

生徒の皆さんへ

京都府立城陽高等学校

校長 畑中 正文

開校記念日について

10月1日は本校の開校記念日です。

本校は昭和47年4月1日に開校し、今年で49年目を迎えました。卒業生は1万5千名を超え、各方面でエネルギーに活躍されています。

昭和40年代後半は京都府南部の人口増加が著しく、高校の新設が待望されていました。本校は府民の要請を受け第31番目の公立高校として設置すべく、昭和46年10月1日に京都府庁内に開設準備室が設けられ、この日が本校の開校記念日と定められました。同年12月には府条例で「京都府立城陽高等学校」と命名され、開校に至りました。初代校長の村高 懐（ゆかし）先生は、「城陽は京都と奈良の中間点でもある。平城京と平安京という日本の二つの古い文化圏を結ぶ大和街道は、学校のすぐ西を通っていたとも想像されるし、古い文化圏を背負いながら新しい文化を創造することを学校の基本的な性格にできないだろうかと思われた」と述べておられました。その先生の強い気持ちが校歌の二番の歌詞から読み取れます。

さて、いよいよ来年には創立50周年の節目を迎えることとなります。

生徒諸君一人ひとりが、開校記念日を機に気持ちを新たにし、今後とも
(1)知性を磨き (2)自らを律し (3)たくましく行動することに一層邁進し、
城陽高校生としての誇りを抱きつつ、学業や部活動等を通して充実した高校生活を送ってくれるよう期待しています。